

様式 2 - 2

第 2 6 回全国果樹技術・経営コンクール推薦理由及び経営概況

集 団 組 織

都道府県名		主要果実品目		
集団組織名(ふりがな)			参加戸数	戸
設立年		(ふりがな) 代表者氏名		
住所(ふりがな)	〒			
電話番号				

I . 推 薦 理 由

注) 1 A 4 用紙にワープロ横書き (40字/行、40行/頁) とする。

2 多様な活動内容を統計的資料のみでは説明し難い場合には、参考となる図表を随時添付されたい。

1. 推薦要旨 (800字程度)

(審査基準 (本要領の別添) からみて強調したい事項について、それぞれ簡潔に記述する)

2. 集団組織を取り巻く環境 (500～1000字程度)

(特徴的な事項を中心に簡潔に記述する)

(1) 立地条件

○ 当該事例の所在する地域、市町村の自然的及び経済的立地条件を簡潔に記述する。

- ・自然的立地条件 (標高、平均傾斜度、地質、土壌、気温 (最高、最低、平均)、降水量、年間日照時間、水利等)
- ・経済的立地条件 (消費地との距離等交通条件、公道へのアクセス等)

○ 必要に応じて園地の状況が明らかとなる地図を添付。

(2) 地域の果樹農業事情

○ 地域の果樹農業の発展の経緯、産地ブランドの確立に向けた生産・出荷・販売等への取組、基盤整備等生産環境の整備への取組等、対象集団組織を取り巻く地域の果樹農業の状況

3. 対象集団組織の概況（2500～4000字程度）

（各項目について記述するものとし、強調したい項目は詳しく記述する）

（1）集団組織の履歴

- 組織化に至った背景、経緯、目的、組織の構成・参加生産者数、組織発展の経緯等

（2）集団組織活動の状況

- 組織運営の体制、組織活動の内容（作業名、作業面積、作業量等）、組織活動（共同作業、請負作業等）への参加者（出役者）
- 組織活動と個別経営活動との関係、農協、市町村等との関係
- 組織の経理

（3）経営的特色

- 組織活動の経営的特色として、特に、園地流動化、労働力確保、省力・低コスト化のための機械・施設整備状況、販売・出荷面での工夫（産地ブランド化、販路開拓等）、加工等付加価値化の取組等について

（4）技術的特色

- 組織活動の技術的特色として、特に、高品質化、省力・低コスト化、団地化・園地整備、環境対策の取組等について
（注）環境対策：環境保全型農業、ポジティブリスト制度（記帳、周辺農家との話し合い等）及びGAP（農業生産工程管理）の取組み等

（5）集団組織活動による参加農家の経営効果

- 集団組織に参加していることで得られた効果（収量、労働時間、品質、生産コスト、粗収益、農業所得等）について、参加していない周辺農家と比較して

（6）地域への波及効果

- 組織活動が地域の果樹農業に与えている影響、消費者の農業理解への貢献及び地域における農業活性化・後継者育成の活動等について出来るだけ具体的に

（7）今後の経営展開

- 今後の組織活動の展開に対する考え方・その方向、今後の課題及び課題解決に向けての組織としての取組、地域的取組等

II. 経営概況

1. 集団組織の現状

(1) 集団組織の参加戸数及び経営規模

全戸数	総戸数	0.5ha 以下	0.5～1ha	1～2ha	2～3ha	3ha 以上	1戸平均	
							経営面積	うち果樹作
専業	戸	戸	戸	戸	戸	戸	ha	ha
第1種兼業								
第2種兼業								
計								
							全戸	

(2) 集団組織タイプ

「集団組織タイプ」は集団栽培、選果場共同利用、農作業機械共同利用等集団組織の形態のタイプが分かるように記入する。(露地栽培と施設栽培は別区分とする。)

(3) 集団組織の労働力構成

性 別	男 (人)					女 (人)					合 計	主たる 分担作業
年令別	29才 まで	30～ 49	50～ 64	65 ～	小計	29才 まで	30～ 49	50～ 64	65 ～	小計		
構 成 員												
構成員の家族												
計												

注) 1 主たる分担作業の欄には摘果、収穫、剪定、農薬散布等主に従事している作業名を記入する。

2 年齢別人数は推薦理由と関係が薄い場合は省略してもよい。

(4) 集団組織の雇用労働の状況

常 雇	性別	人数	年間雇用日数	主たる分担作業
		人	日	
臨時雇用	延べ雇用日数 (人・日)			

注) 主たる分担作業の欄には摘果、収穫、剪定、農薬散布等主に従事している作業名を記入する。

2. (1) 耕地の概況

総 耕 地 面 積	ha
水 田	ha
普 通 畑	ha
果 樹 園	ha

(2) 左表の果樹園のうち集団活動の対象となる果樹園面積

品 目	栽培面積 (うち成園)
①	ha (ha)
②	ha (ha)
③	ha (ha)
④	ha (ha)
計	ha (ha)

注) 1 (1) は集団組織構成員の関係する耕地の概況を記入する。

2 (2) は集団組織活動の対象となっている果樹の面積を記入する。

「品目」は、りんご、ぶどう、温州みかん等果樹の種類を記入する。

ただし、

同一果樹でも露地栽培と施設栽培は区別する。

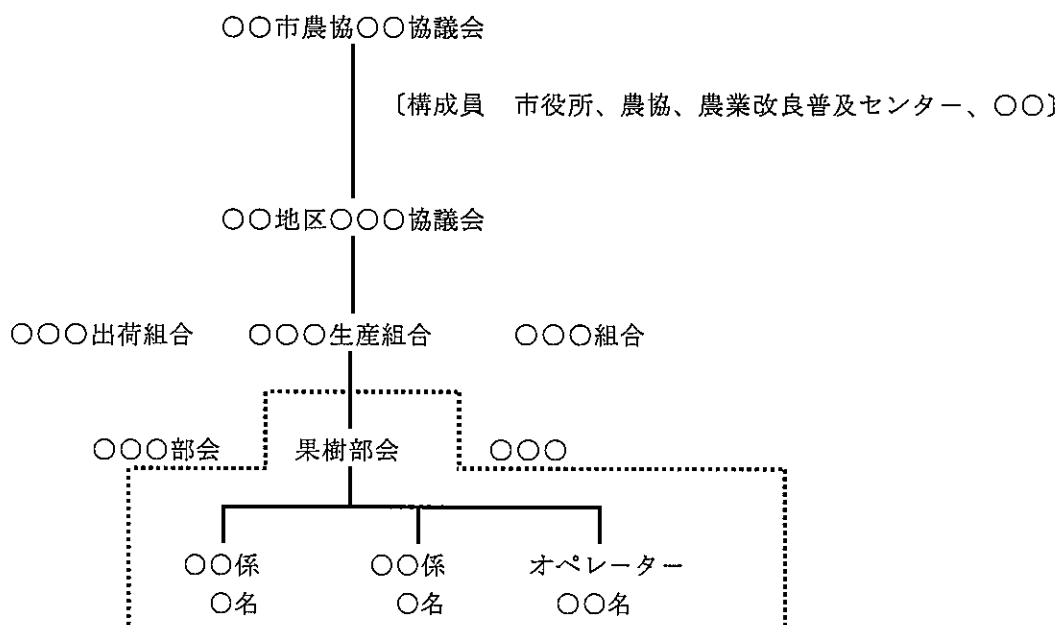
3 (2) で、集団組織活動の対象果樹園面積以外で併せて集団組織で複合的に栽培されている他の品目の果樹園面積についても対象果樹の下に線を引いて参考記載する。

3. 集団組織の組織図

(1) 当該集団組織の生産・出荷組織としての性格が分かるように図示するものとし、できる限り当該集団組織内の構成だけでなく、地域の組織活動の中での位置付け、他の集団組織との関係等についても図示する。

(2) 当該集団組織の組織を示す部分は で囲むこと。

(例)



4. 果樹作関係主要機械・施設の整備状況

(1) 主要機械

種 類	台 数	仕 様	導入年	備 考

注) 主要機械とは、主として果樹作用（スピードスプレーヤー、モノレール等）のものとし、専ら集団組織用として使われているものを記入する。

(2) 主要施設

種 類	構 造	規模(面積・延長等)	建築年	備 考

注) 主要施設とは、主として果樹作用の農用建物（倉庫）等、園芸施設（ガラス温室、スプリンクラー、ビニールハウス、加温施設等）、集出荷施設（共選場、光センサー選果機等）とする。

5. 果樹生産・出荷の概況

(1) 生産の概況

品目・品種	収 穫 面 積			収 穫 量				
	前々年産 (R3 年)	前年産 (R4 年)	当年産 (R5 年)	前々年産 (R3 年)	前年産 (R4 年)	当年産 (R5 年)	3 か 年 平 均	
							収穫量	10 a 当たり
	ha	ha	ha	t	t	t	t	kg

- 注) 1 「品目・品種」欄の品目については2.(2)の集団組織活動の対象となる果樹園面積の品目と同じとし、品種については経営の主力となるものについて記入する。
- 2 集団組織活動の対象となる果樹と併せて集団組織で複合的に栽培されている他の品目の果樹の生産の概況についても対象果樹の下に線を引いて参考記載する。
- 3 3か年平均10a 当たり収穫量は3か年の総収穫量を3か年の延べ収穫面積で除して得た値を記入する。

(2) 選果及び出荷の概況

品目・品種	共 同 選 果 量			出 荷 額			
	前々年産 (R3 年)	前年産 (R4 年)	当年産 (R5 年)	前々年産 (R3 年)	前年産 (R4 年)	当年産 (R5 年)	3 か 年 平均
							千円

- 注) 1 光センサー付きの選果機の場合は()で内数を注記する。
- 2 共同選果量及び出荷額については当該集団組織に係る部分のみ記入する。
- 3 「品目・品種」欄の品目・品種については(1)と同じものを記入する。
- 4 集団組織活動の対象となる果樹と併せて集団組織で複合的に栽培されている他の品目の果樹の選果及び出荷の概況についても対象果樹の下に線を引いて参考記載する。

(当年産出荷の特徴)

- 注) 1 地域的に見た共同選果量、出荷額の特徴を記述する。
- 2 特に、出荷額が地域平均よりも少ない場合や当年産出荷額が減少している場合は、その理由等を記述する。

6. 当年の販売方法別割合

品目・品種	販 売 方 法 別 の 割 合						
	農 協	集団組織で 市場出荷	集荷業 者	スーパー等へ 直接出荷	直売 (宅配合)	観光園	その他
	%	%	%	%	%	%	%

注) 「品目・品種」欄の品目・品種については第5表と同じものを記入する。

7. 園地の状況（必要に応じて記入）

(1) これまでの対象集団組織の園地整備、品目・品種更新等の状況

年 次	対象品目・品種	面 積	整 備 等 の 内 容	備 考

- 注) 1 自力整備、補助事業による整備等主要なものについて、年代順に記入する。
 2 「面積」は、面的なもののみでなく、農道、水路等線的整備にかかるものの受益面積も記入する。

(2) 現在の集団組織の園地状況（必要に応じて記入）

--

注) 防除機（スピードスプレーヤー等）の集団利用、集団栽培に対する出役についての支払、園地の団地化、傾斜等の状況及び農道、作業道の敷設状況、資材や収穫物の搬出入条件、灌漑、排水等水利条件などについて、簡潔に記入する。

8. 選果及び出荷の状況（必要に応じて記入）

（1）これまでの対象集団組織の選果及び出荷についての整備状況

年 次	対 象 品 目	能力	整 備 の 内 容	備 考

注） 自力整備、補助事業による整備等主要なものについて、年代順に記入する。

（2）選果及び出荷の改善状況

注） 集団組織が形成される前の選果及び出荷の状況（個人選果及び個人出荷が主等）を記入するとともに、集・出荷場の運営の現状、集団組織構成員の利用状況等について、集団組織が形成された後の改善点を簡潔に記入する。

9. 集団組織活動の効果

(極力、計数や図表を入れて記述する。)

項 目	集団組織に参加している農家	集団組織に参加していない農家又は地域の平均
収量		
労働時間		
品質		
生産コスト		
平均的経営収支 粗収益 経営費 所得		

注) 1 集団組織活動に参加している農家と集団組織に参加していない農家について、地域においての活動、生産状況、果実の品質等についてその特徴等を記述する。

2 概数で可。

平均的な経営収支については集団組織参加農家のメリットを把握するものであり、可能な範囲で調査して、記述する。

3 経営費には、果樹共済掛金等を含めて記載する。また、所得には、果樹共済支払額等を含めて記載する。

10. 経営の優秀性等

(1) 集団組織としての栽培技術上のポイント

(2) 集団組織としての経営管理上のポイント

注) (1)、(2)ともに、その地域又は(道府)県内の他の経営に比較して優れている点(セールスポイント)を技術・経営における重要度の順に①、②等を付けて箇条書きする。

11. 写真

必要に応じて、園地の状況、農作業状況(剪定、収穫等)、選果場等のスナップ写真を添付する。

12. 病虫害防除

必要に応じて、ベースとしている防除暦等のコピーを添付する。